

2026年7月29日
株式会社日本政策金融公庫

持ち直しの動きに足踏みがみられる生活衛生関係営業の景況

生活衛生関係営業の景気動向等調査結果（2026年4～6月期）

（前回）持ち直しの動きに足踏みがみられる生活衛生関係営業の景況

＜業況判断DI＞（2ページ）

- 業況判断DIは、前期から12.2ポイント上昇し、▲14.1となった。
- 来期は8.2ポイント低下し、▲22.3となる見通し。

＜売上DI＞（3ページ）

- 売上DIは、前期から0.4ポイント上昇し、▲11.7となった。
- 来期は1.4ポイント低下し、▲13.1となる見通し。

＜採算DI＞（4ページ）

- 採算DIは、前期から4.3ポイント上昇し、▲4.6となった。

＜経営上の問題点＞（9、10ページ）

- 経営上の問題点は、「仕入価格・人件費等の上昇を価格に転嫁困難」が61.1%と最も多く、次いで、「顧客数の減少」（40.6%）、「店舗施設の狭隘・老朽化」（20.5%）の順となった。

※ 11ページ以降に業種ごとの業況判断理由を掲載しています。そのほか、本調査で収集した「経営取り組み事例」を日本公庫ホームページに掲載しています（https://www.jfc.go.jp/n/findings/seikatu_kekka_m_index.html）。

＜お問い合わせ先＞

日本政策金融公庫 国民生活事業本部 生活衛生融資部 生活衛生情報支援グループ TEL03-3270-1653（担当：和知、中谷）
〒100-0004 東京都千代田区大手町1-9-4 大手町フィナンシャルシティ ノースタワー

【調査の実施要領】

調 査 時 点	2026年 6 月中旬					
調 査 方 法	郵送調査					
調 査 対 象	生活衛生関係営業	3,290	企業			
有効回答企業数	3,140企業（回答率 95.4%）					
（業 種 内 訳）	飲食業	1,439	企業	映画館	52	企業
	食肉・食鳥肉販売業	152	企業	ホテル・旅館業	183	企業
	氷雪販売業	57	企業	公衆浴場業	110	企業
	理容業	432	企業	クリーニング業	262	企業
	美容業	453	企業			

【本調査における留意事項】

- ・ 比率の算出にあたっては、無回答を除いたものを母数としている。

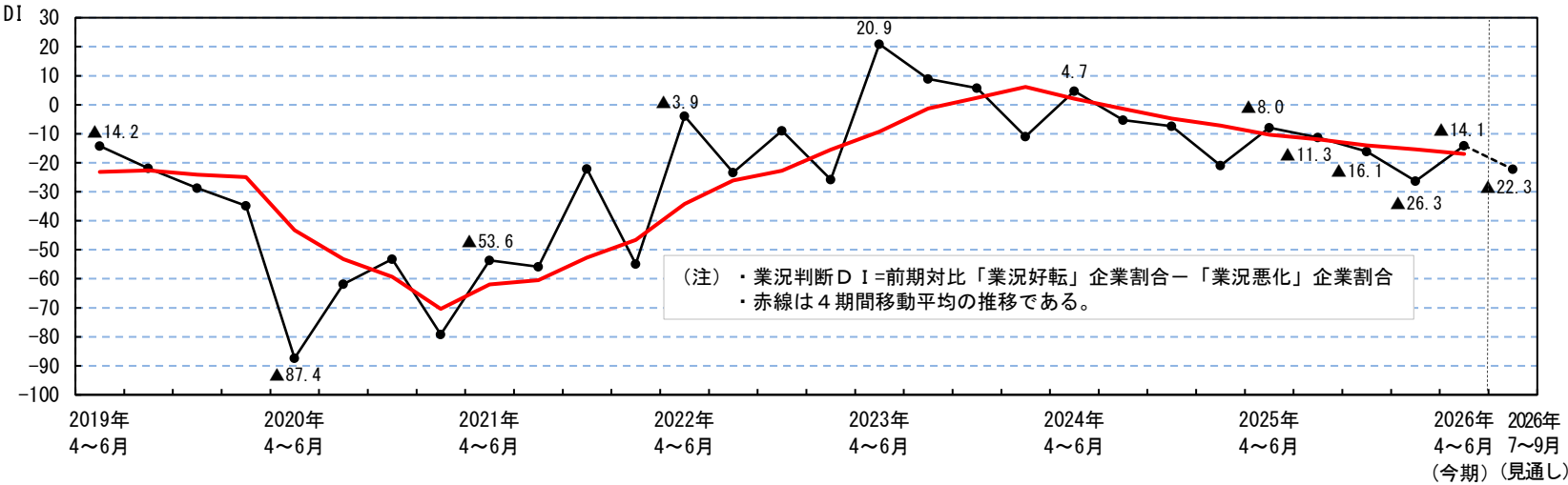
I 景気の動向

1. 業況判断

- 業況判断DIは、前期から12.2ポイント上昇し、▲14.1となった。

○ 来期は8.2ポイント低下し、▲22.3となる見通し。

図表1 業況判断DIの推移（全業種計）



図表2 業種別 業況判断DIの推移（飲食業を除く）

凡例	2025年 4～6月	2025年 7～9月	2025年 10～12月	2026年 1～3月	2026年 4～6月 (今期)	2026年 7～9月 (見通し)
食肉・食鳥肉	▲ 21.0	▲ 30.3	▲ 19.0	▲ 21.4	▲ 23.0	▲ 23.0
氷 雪	9.4	23.6	▲ 13.5	▲ 35.7	▲ 5.3	▲ 8.8
理 容	▲ 8.9	▲ 7.6	▲ 26.5	▲ 26.7	▲ 6.0	▲ 11.3
美 容	▲ 16.4	▲ 19.0	▲ 22.7	▲ 30.8	▲ 18.8	▲ 20.8
映 画 館	14.5	38.2	▲ 13.2	▲ 11.1	23.1	0.0
ホテル・旅館	10.6	7.4	16.3	▲ 25.8	4.9	▲ 1.6
公衆浴場	▲ 6.3	▲ 9.9	▲ 1.8	10.0	▲ 10.0	▲ 41.8
クリーニング	9.8	▲ 37.0	▲ 9.3	▲ 51.3	▲ 3.4	▲ 58.0

図表3 飲食業 業況判断DIの推移

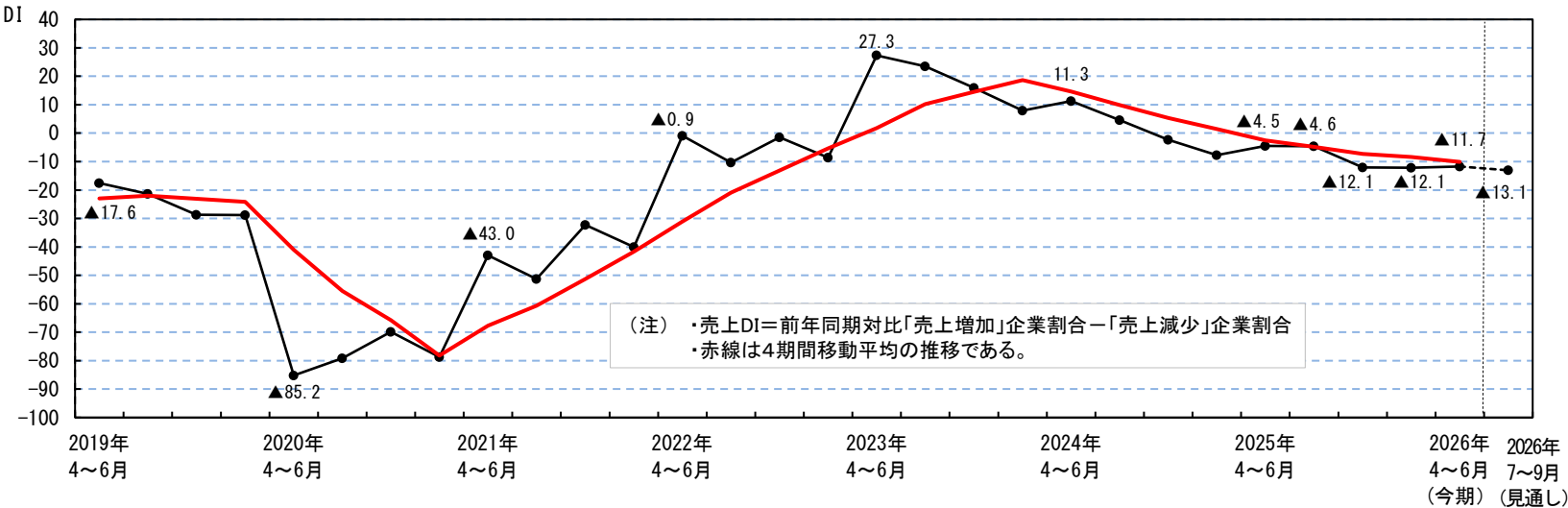
凡例	2025年 4～6月	2025年 7～9月	2025年 10～12月	2026年 1～3月	2026年 4～6月 (今期)	2026年 7～9月 (見通し)
飲食業(全体)	▲ 10.8	▲ 8.9	▲ 17.4	▲ 23.8	▲ 20.4	▲ 21.9
そば・うどん	▲ 2.2	1.7	▲ 22.9	▲ 19.0	▲ 17.0	▲ 23.3
中華料理	▲ 9.2	▲ 12.5	▲ 20.3	▲ 20.1	▲ 20.9	▲ 29.4
す し	▲ 19.6	▲ 18.0	▲ 18.0	▲ 26.8	▲ 20.9	▲ 19.8
料 理	▲ 14.7	▲ 14.8	▲ 2.9	▲ 22.6	▲ 27.9	▲ 16.9
喫 茶	▲ 8.1	▲ 6.1	▲ 20.7	▲ 22.6	▲ 16.8	▲ 16.8
社 交	▲ 19.3	▲ 15.6	▲ 26.7	▲ 32.1	▲ 26.5	▲ 19.9
その他飲食	▲ 7.5	▲ 4.6	▲ 13.5	▲ 22.9	▲ 17.7	▲ 23.7

※ 表中の網掛けは、全業種計の割合を上回るものを表す(以下同じ)。

2. 売 上

- 売上DIは、前期から0.4ポイント上昇し、▲11.7となった。
- 来期は1.4ポイント低下し、▲13.1となる見通し。

図表4 売上DIの推移（全業種計）



図表5 業種別 売上DIの推移（飲食業を除く）

凡例	2025年 4～6月	2025年 7～9月	2025年 10～12月	2026年 1～3月	2026年 4～6月 (今期)	2026年 7～9月 (見通し)
食肉・食鳥肉	▲ 14.0	▲ 21.9	▲ 10.8	1.3	▲ 7.9	▲ 9.9
氷 雪	▲ 9.4	41.8	1.9	▲ 14.3	▲ 15.8	▲ 14.0
理 容	▲ 9.8	▲ 6.4	▲ 24.2	▲ 19.8	▲ 7.7	▲ 9.5
美 容	▲ 16.6	▲ 19.9	▲ 21.3	▲ 22.0	▲ 18.8	▲ 20.1
映 画 館	3.6	50.9	22.6	1.9	19.2	▲ 15.4
ホテル・旅館	27.9	16.0	25.5	5.4	7.7	11.5
公衆浴場	9.9	0.9	2.8	26.4	▲ 7.3	▲ 25.5
クリーニング	▲ 12.0	▲ 18.5	▲ 21.2	▲ 26.8	▲ 19.1	▲ 27.1

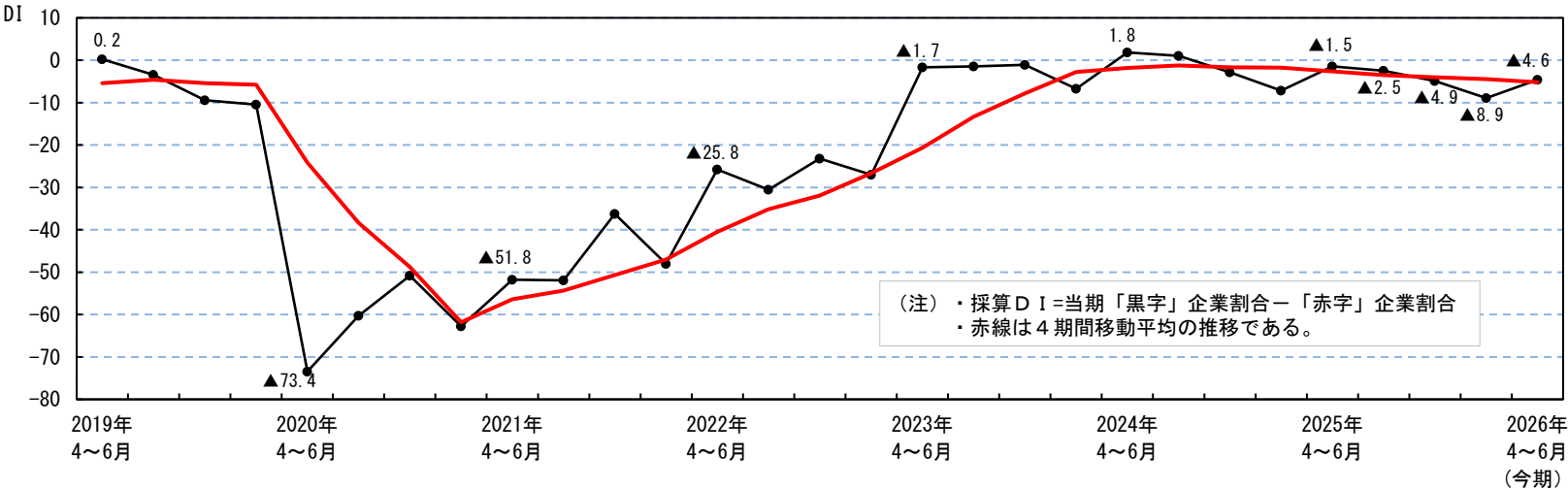
図表6 飲食業 売上DIの推移

凡例	2025年 4～6月	2025年 7～9月	2025年 10～12月	2026年 1～3月	2026年 4～6月 (今期)	2026年 7～9月 (見通し)
飲食業(全体)	▲ 1.9	▲ 1.9	▲ 11.9	▲ 11.2	▲ 13.6	▲ 11.7
そば・うどん	7.8	11.6	▲ 1.7	▲ 8.5	▲ 10.3	▲ 9.2
中華料理	3.9	▲ 3.5	▲ 16.9	▲ 10.1	▲ 12.5	▲ 14.5
す し	▲ 15.1	▲ 16.3	▲ 16.9	▲ 9.0	▲ 14.2	▲ 10.8
料 理	▲ 14.8	▲ 16.5	▲ 1.5	▲ 21.1	▲ 26.7	▲ 17.8
喫 茶	8.8	6.2	▲ 11.5	▲ 5.5	▲ 5.4	▲ 3.4
社 交	▲ 14.7	▲ 11.2	▲ 27.4	▲ 21.5	▲ 28.2	▲ 20.5
その他飲食	2.8	4.4	▲ 8.9	▲ 8.2	▲ 7.3	▲ 9.3

3. 採 算

○ 採算DIは、前期から4.3ポイント上昇し、▲4.6となった。

図表7 採算DIの推移（全業種計）



図表8 業種別 採算DIの推移（飲食業を除く）

凡例	2025年 4～6月	2025年 7～9月	2025年 10～12月	2026年 1～3月	2026年 4～6月 (今期)
食肉・食鳥肉	10.8	▲ 3.2	5.1	5.8	1.3
氷 雪	▲ 13.2	38.2	▲ 3.8	▲ 8.9	0.0
理 容	5.0	7.3	0.9	2.9	7.2
美 容	▲ 6.1	▲ 6.1	▲ 8.3	▲ 11.0	▲ 9.3
映 画 館	1.8	34.5	5.7	5.6	5.8
ホテル・旅館	11.2	13.3	20.1	▲ 8.6	7.1
公衆浴場	18.0	1.8	9.2	15.5	15.5
クリーニング	9.0	▲ 11.3	▲ 4.6	▲ 34.7	▲ 2.3

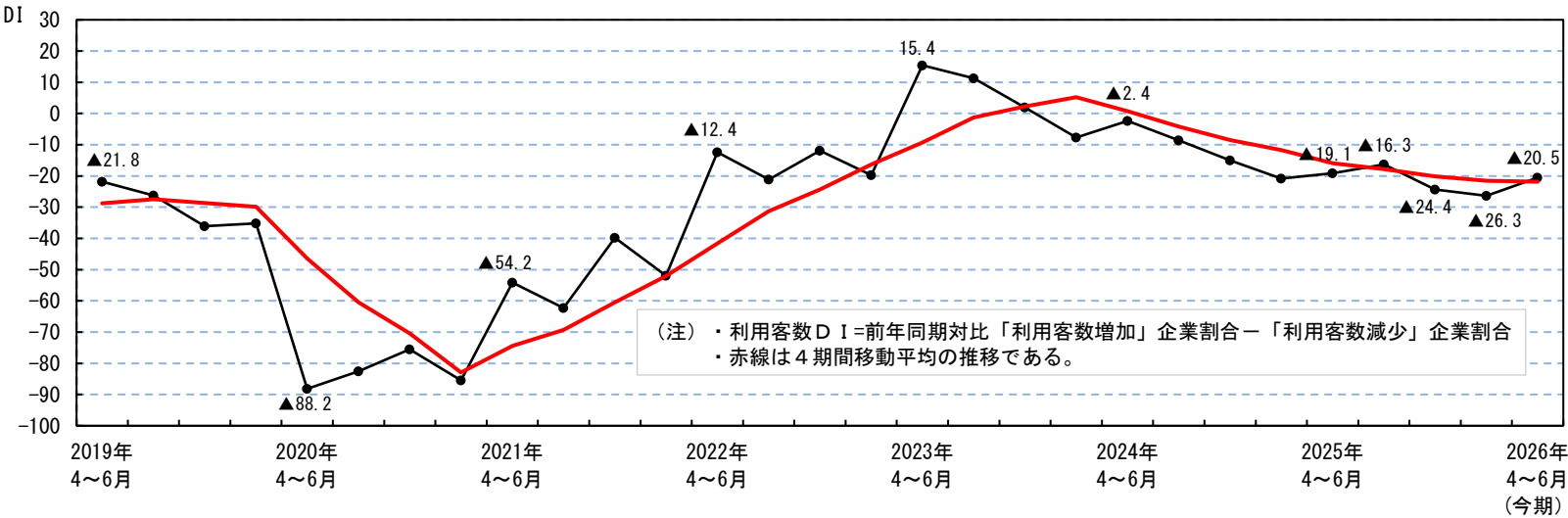
図表9 飲食業 採算DIの推移

凡例	2025年 4～6月	2025年 7～9月	2025年 10～12月	2026年 1～3月	2026年 4～6月 (今期)
飲食業(全体)	▲ 7.9	▲ 7.9	▲ 11.4	▲ 11.0	▲ 11.3
そば・うどん	6.1	4.6	3.4	▲ 2.2	▲ 2.8
中華料理	▲ 3.9	▲ 1.4	▲ 13.5	▲ 6.0	▲ 11.8
す し	▲ 11.7	▲ 11.8	▲ 12.9	▲ 10.1	▲ 14.1
料 理	▲ 19.4	▲ 19.5	▲ 11.8	▲ 15.0	▲ 18.4
喫 茶	▲ 15.5	▲ 17.0	▲ 20.7	▲ 14.4	▲ 16.1
社 交	▲ 22.9	▲ 20.6	▲ 31.9	▲ 25.7	▲ 18.9
その他飲食	▲ 1.3	▲ 1.7	▲ 4.2	▲ 8.2	▲ 6.2

4. 利用客数

○ 利用客数DIは、前期から5.8ポイント上昇し、▲20.5となった。

図表10 利用客数DIの推移（全業種計）



図表11 業種別 利用客数DIの推移（飲食業を除く）

凡例	2025年 4～6月	2025年 7～9月	2025年 10～12月	2026年 1～3月	2026年 4～6月 (今期)
食肉・食鳥肉	▲ 15.3	▲ 24.5	▲ 17.1	▲ 16.2	▲ 14.5
氷 雪	▲ 20.8	7.3	▲ 3.8	▲ 17.9	▲ 22.8
理 容	▲ 24.9	▲ 16.6	▲ 34.0	▲ 29.8	▲ 17.2
美 容	▲ 29.8	▲ 29.3	▲ 35.7	▲ 36.8	▲ 32.7
映 画 館	1.8	40.0	20.8	1.9	17.3
ホテル・旅館	2.2	▲ 1.1	9.8	▲ 12.9	0.5
公衆浴場	▲ 11.7	▲ 19.1	▲ 11.9	3.6	▲ 16.4
クリーニング	▲ 19.5	▲ 35.1	▲ 34.4	▲ 43.0	▲ 28.2

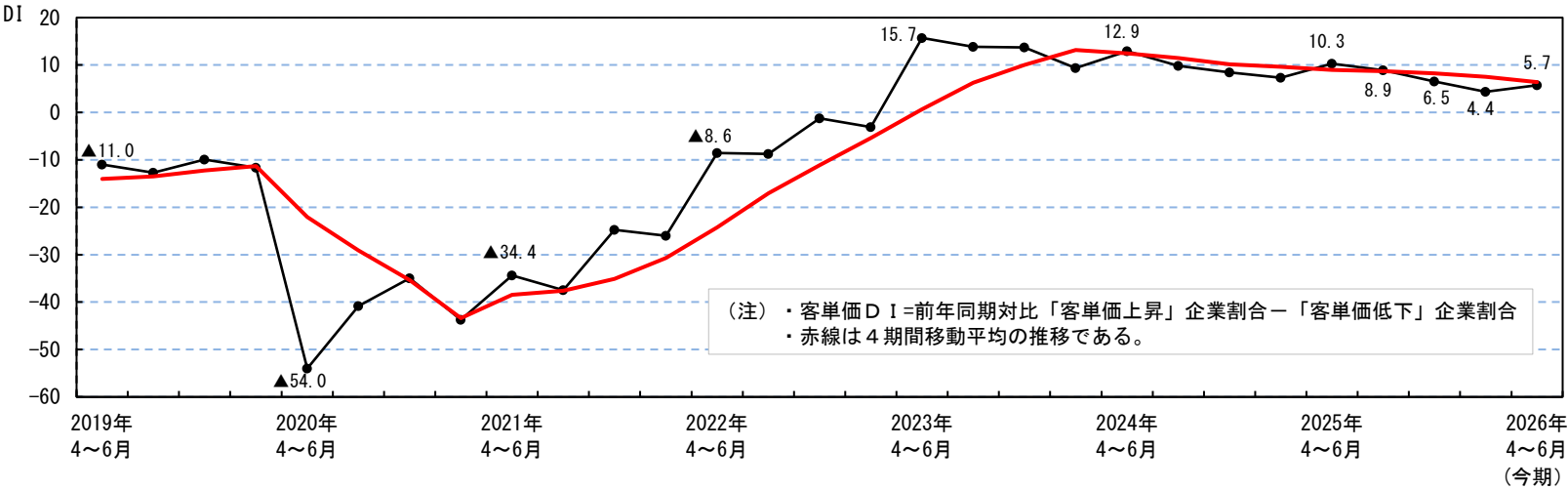
図表12 飲食業 利用客数DIの推移

凡例	2025年 4～6月	2025年 7～9月	2025年 10～12月	2026年 1～3月	2026年 4～6月 (今期)
飲食業(全体)	▲ 18.4	▲ 12.5	▲ 24.8	▲ 25.5	▲ 21.2
そば・うどん	▲ 14.0	▲ 5.2	▲ 20.8	▲ 18.6	▲ 17.8
中華料理	▲ 19.7	▲ 4.9	▲ 25.0	▲ 25.5	▲ 24.3
す し	▲ 23.5	▲ 20.2	▲ 30.3	▲ 23.0	▲ 23.3
料 理	▲ 28.9	▲ 25.2	▲ 22.1	▲ 27.8	▲ 25.2
喫 茶	▲ 13.6	▲ 17.1	▲ 25.9	▲ 26.2	▲ 15.4
社 交	▲ 23.2	▲ 18.8	▲ 33.2	▲ 34.9	▲ 28.7
その他飲食	▲ 14.3	▲ 7.2	▲ 21.1	▲ 24.3	▲ 18.2

5. 客単価

○ 客単価D Iは、前期から1.3ポイント上昇し、5.7となった。

図表13 客単価D Iの推移（全業種計）



図表14 業種別 客単価D Iの推移（飲食業を除く）

凡例	2025年 4～6月	2025年 7～9月	2025年 10～12月	2026年 1～3月	2026年 4～6月 (今期)
食肉・食鳥肉	▲ 7.6	▲ 12.9	0.0	▲ 0.6	0.7
氷 雪	0.0	20.0	1.9	▲ 10.7	▲ 8.8
理 容	▲ 3.1	0.7	▲ 5.9	▲ 4.5	0.0
美 容	0.2	1.5	▲ 4.3	▲ 5.7	▲ 4.2
映 画 館	18.2	21.8	15.1	11.1	21.2
ホテル・旅館	45.8	45.7	47.3	23.7	36.1
公衆浴場	20.7	12.7	15.6	16.4	16.4
クリーニング	0.0	▲ 10.6	▲ 11.6	▲ 17.0	▲ 7.3

図表15 飲食業 客単価D Iの推移

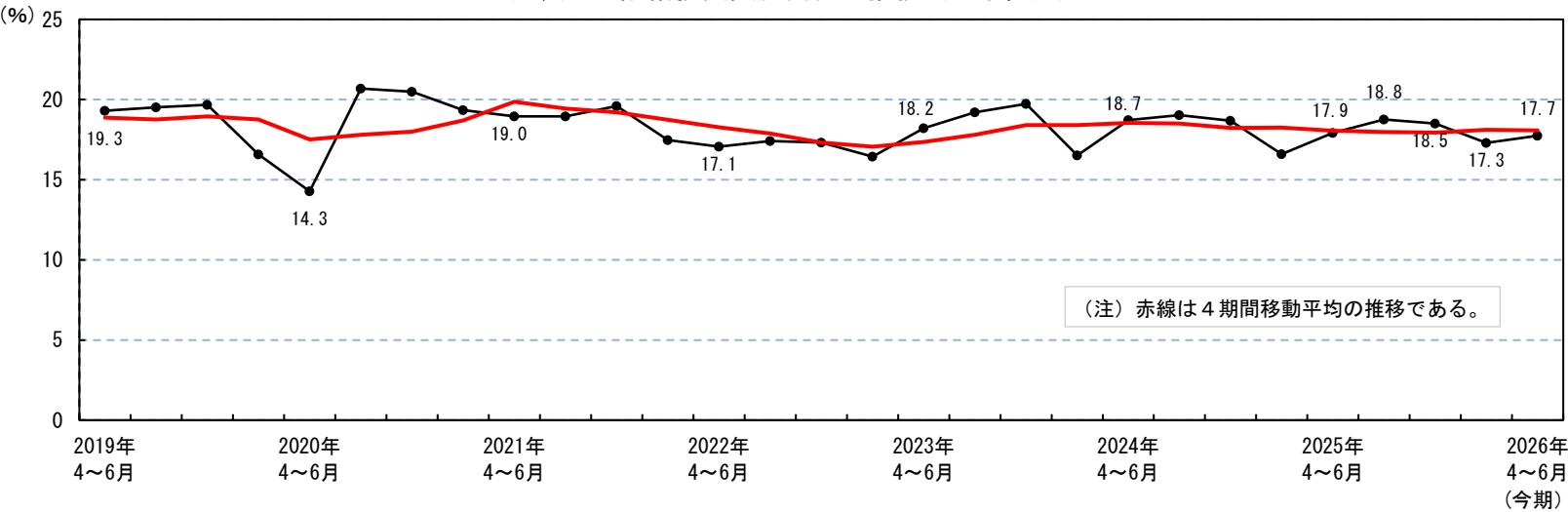
凡例	2025年 4～6月	2025年 7～9月	2025年 10～12月	2026年 1～3月	2026年 4～6月 (今期)
飲食業(全体)	16.0	13.5	11.5	11.6	8.9
そば・うどん	26.3	26.2	24.3	11.9	20.7
中華料理	15.8	11.1	0.0	10.7	▲ 6.6
す し	17.3	12.9	8.4	18.0	9.1
料 理	19.5	16.5	21.3	20.3	14.8
喫 茶	13.6	7.5	13.7	16.6	14.8
社 交	▲ 1.1	0.5	▲ 6.8	▲ 2.7	▲ 1.0
その他飲食	18.4	16.3	15.7	11.1	10.0

II 設備投資の動向

1. 設備投資の実施状況

○ 今期（2026年4～6月）に設備投資を行った企業の割合は、前期から0.4ポイント上昇し、17.7%となった。

図表16 設備投資実施割合の推移（全業種計）



図表17 業種別 設備投資実施割合の推移（飲食業を除く） (%)

凡例	2025年 4～6月	2025年 7～9月	2025年 10～12月	2026年 1～3月	2026年 4～6月 (今期)
食肉・食鳥肉	34.4	34.2	32.3	31.8	30.9
氷 雪	18.9	12.7	11.5	12.5	19.3
理 容	7.7	10.0	9.7	9.0	10.6
美 容	11.6	9.4	11.5	10.4	10.4
映 画 館	38.2	32.7	37.7	44.4	46.2
ホテル・旅館	45.8	46.3	51.1	50.5	51.9
公衆浴場	45.9	37.8	33.9	30.0	36.4
クリーニング	15.0	20.0	17.4	18.9	14.5

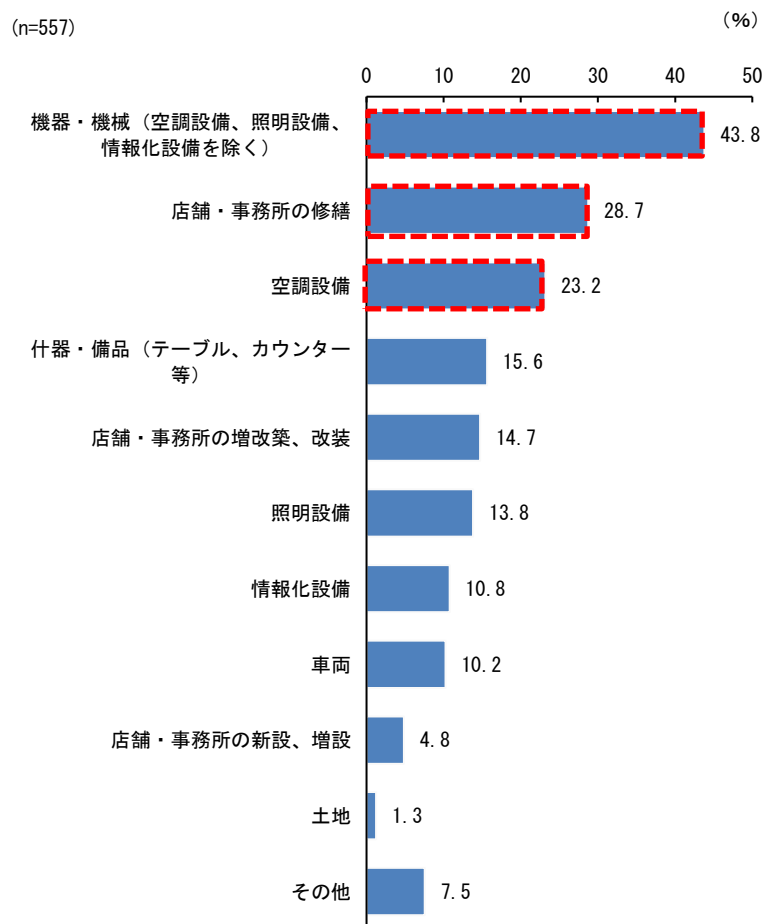
図表18 飲食業 設備投資実施割合の推移 (%)

凡例	2025年 4～6月	2025年 7～9月	2025年 10～12月	2026年 1～3月	2026年 4～6月 (今期)
飲食業(全体)	15.2	17.0	16.1	13.9	14.5
そば・うどん	15.0	20.1	20.0	15.6	19.3
中華料理	19.1	19.4	13.5	14.1	11.1
す し	16.8	20.2	13.5	10.6	9.6
料 理	23.3	28.9	22.1	21.8	26.5
喫 茶	10.8	8.2	9.3	11.0	10.7
社 交	7.3	6.5	11.0	8.0	10.7
その他飲食	15.9	17.9	19.0	15.6	15.0

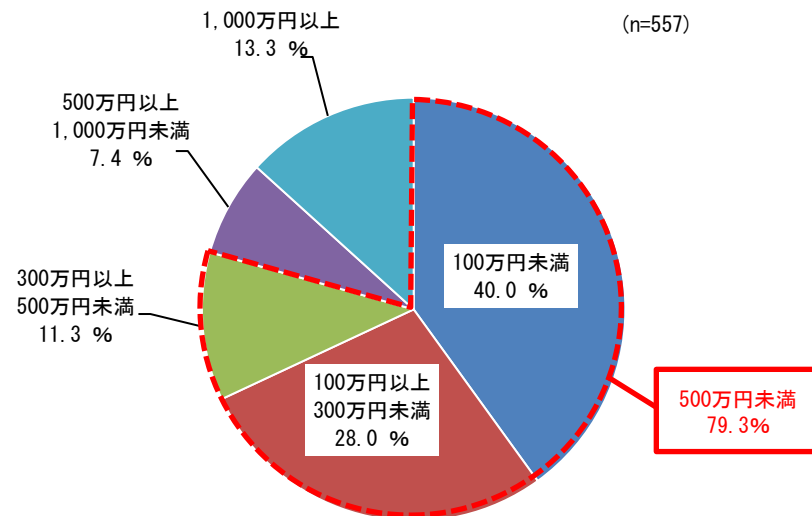
2. 設備投資の内容、設備投資金額、来期の設備投資計画

- 今期（2026年4～6月）の設備投資の内容は、「機器・機械（空調設備、照明設備、情報化設備を除く）」が43.8%と最も多く、次いで、「店舗・事務所の修繕」（28.7%）、「空調設備」（23.2%）の順となった。
- 今期の設備投資金額は、500万円未満が全体の約8割を占めた。
- 来期（2026年7～9月）の設備投資計画については、「実施予定あり」が13.0%となった。

図表19 設備投資の内容
(全業種計、複数回答（金額の大きい順に3つ以内）)



図表20 設備投資金額（全業種計）



図表21 業種別 来期の設備投資実施予定割合（飲食業を除く） (%)

凡例	2026年 7～9月期の予定
全業種計	13.0
食肉・食鳥肉	24.3
氷雪	7.0
理容	6.9
美容	9.5
映画館	23.1
ホテル・旅館	35.5
公衆浴場	26.4
クリーニング	11.5

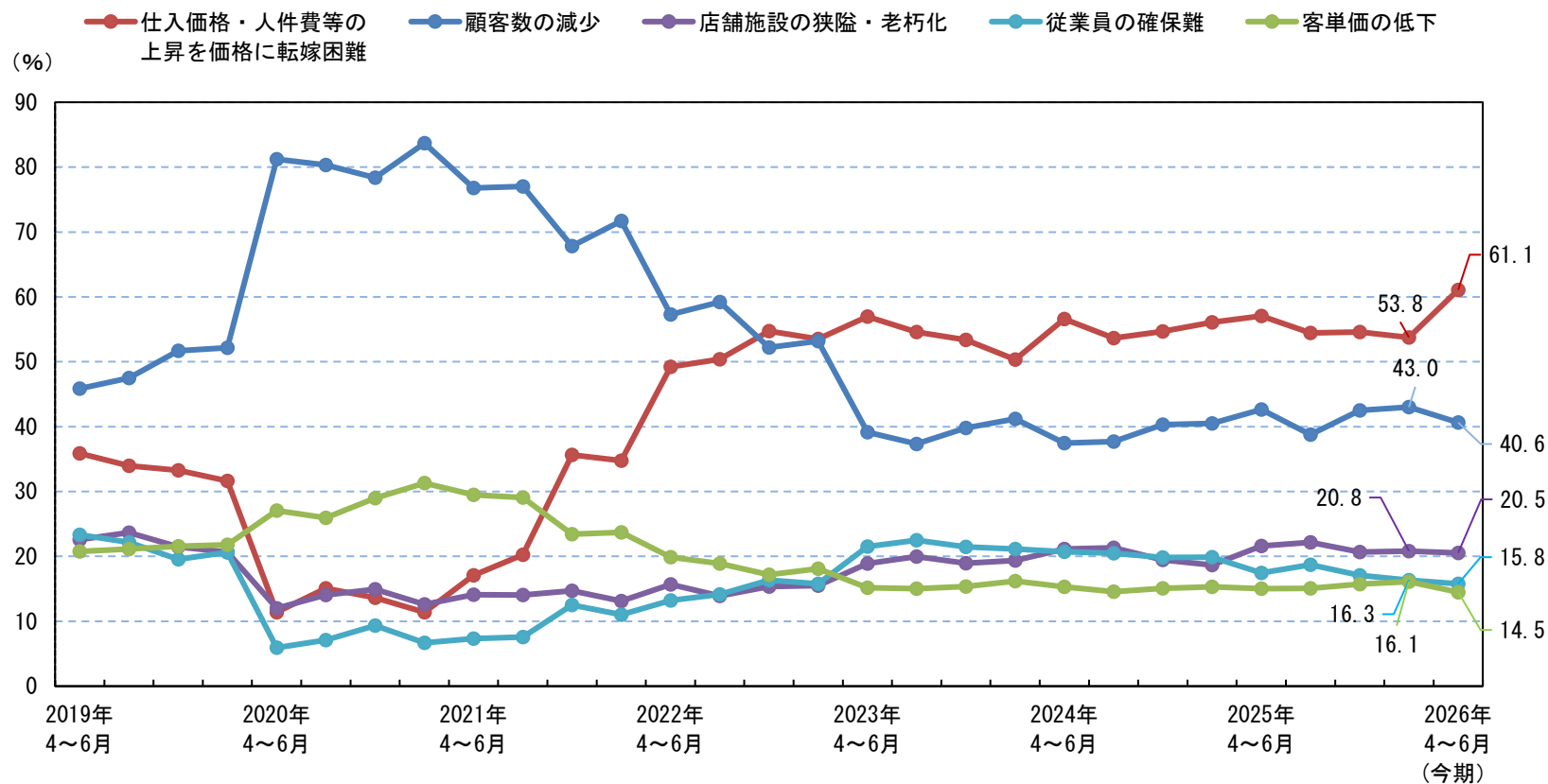
図表22 飲食業 来期の設備投資実施予定割合 (%)

凡例	2026年 7～9月期の予定
飲食業(全体)	11.0
そば・うどん	10.8
中華料理	9.8
すし	8.5
料理	20.6
喫茶	8.1
社交	6.1
その他飲食	12.6

Ⅲ 経営上の問題点

- 経営上の問題点は、「仕入価格・人件費等の上昇を価格に転嫁困難」が61.1%と最も多く、次いで、「顧客数の減少」(40.6%)、「店舗施設の狭隘・老朽化」(20.5%)の順となった。

図表23 主な経営上の問題点の推移（全業種計、複数回答（2つ以内））



図表24 業種別 主な経営上の問題点（2026年4～6月）

（％）

項 目	仕入価格・人件費等の 上昇を価格に転嫁困難	顧客数の減少	店舗施設の狭隘・老朽化	従業員の確保難	客単価の低下	後継者難	事業資金借入難	その他	特に問題なし
全 業 種 計	61.1	40.6	20.5	15.8	14.5	5.9	3.3	4.4	6.3
飲食業(全体)	72.0	39.0	16.2	18.3	12.6	5.2	3.8	3.8	4.2
そば・うどん	75.6	28.4	22.2	20.5	13.6	7.4	1.7	1.7	4.0
中華料理	75.8	33.3	21.6	14.4	17.0	9.2	3.9	2.6	3.9
すし	71.8	36.2	15.8	14.1	13.0	6.2	3.4	4.5	6.2
料理	67.6	36.0	21.3	28.7	11.0	3.7	6.6	2.9	1.5
喫茶	81.9	36.9	13.4	12.8	8.7	4.7	5.4	2.0	2.7
社交	59.7	60.7	7.7	19.9	15.3	1.0	3.6	4.1	4.6
その他飲食	72.8	38.3	15.3	18.6	11.3	5.1	3.3	5.3	4.6
食肉・食鳥肉	75.7	27.0	25.7	20.4	19.1	4.6	0.0	2.6	4.6
氷雪	47.4	33.3	14.0	17.5	21.1	12.3	1.8	7.0	7.0
理容	36.3	43.3	20.6	10.6	17.6	8.1	1.6	6.0	14.8
美容	42.6	55.4	15.5	10.2	18.5	6.6	4.0	4.0	9.5
映画館	53.8	38.5	36.5	25.0	5.8	1.9	3.8	5.8	3.8
ホテル・旅館	61.7	22.4	45.4	31.7	5.5	3.8	9.3	4.4	1.6
公衆浴場	59.1	34.5	49.1	5.5	5.5	9.1	0.9	7.3	5.5
クリーニング	70.2	45.0	19.1	8.0	20.2	5.3	1.5	4.6	3.1

（注）複数回答（2つ以内）のため合計は100を超える。

Ⅳ 業況判断理由

今期：2026年4～6月 来期：2026年7～9月

(1) そば・うどん

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	不変	石川県	売上は伸びているが、仕入価格や人件費、光熱費の上昇により数字ほどの好調感はなく、不変とした。
	悪化	和歌山県	インバウンド客が減少傾向にある。特に中国人観光客の来店が少ない。
来期	不変	香川県	インバウンド客や県外からの観光客は増加傾向にあるが、仕入価格や人件費の上昇により、業況は変わらないだろう。
	悪化	東京都	物価の上昇が続く見通しだが、上昇分を十分に価格転嫁できず、引き続き厳しい状況が続くだろう。

(2) 中華料理

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	不変	奈良県	インバウンド客は客数、客単価ともに増加している一方、日本人観光客の客単価は低下している。仕入価格の上昇もあり、全体としては横ばい。
	悪化	宮城県	物価高騰を受けて消費者の節約志向が高まり、外食を控える動きが顕著となっている。
来期	好転	埼玉県	宴会需要が戻りつつある。今後も増加する見通し。
	悪化	佐賀県	値上げしたものの、物価高騰に加えて人件費の上昇も続いており、コスト増加分を十分に転嫁できていない。

(3) すし

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	好転	静岡県	インバウンド客が増加したことで業況は好転した。また、客単価も上昇傾向にある。
	悪化	兵庫県	客数の減少と仕入価格の上昇が続き、業況は悪化している。
来期	不変	新潟県	ディナータイムの利用は減少傾向だが、ランチタイムの利用は増えている。来期も業況は変わらないだろう。
	悪化	和歌山県	暑さで食欲が落ちることに加えて、物価高騰もしばらく続くと思われる。客数は減少する見通し。

(4) 料理

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	不変	岐阜県	売上は増加傾向にあるが、それ以上に仕入価格や人件費が上昇しており、好転には至らない。
	悪化	徳島県	物価高騰に収入の増加が追いつかず、顧客の消費控えが起きている。外食頻度は大きく低下しており、厳しい状況にある。
来期	好転	宮城県	来期は土用の丑の日があり、その周辺の日是比较的売上が伸びる傾向がある。
	悪化	岡山県	プラスチック製品の高騰に加え、海水温上昇による不漁で魚介類の値上がりも懸念される。来期も業況は厳しい見通し。

(5) 喫茶

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	好転	三重県	コロナ禍で減少していたグループ客の利用が回復してきており、業況は好転している。
	不変	茨城県	売上はやや増加しているが、仕入価格や諸経費が上昇しており利益は変わらない。
来期	好転	鳥取県	夏場は観光客の増加により、客足が伸びる見込み。
	不変	宮崎県	値上げ後の価格が顧客に受け入れられてきた印象がある。今後も業況は大きく変わらない見通し。

(6) 社交

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	好転	兵庫県	今期は歓送迎会のシーズンだったことに加え、ゴールデンウィーク前後も新規客の来店が増加し、総じて好調だった。
	悪化	群馬県	物価高騰に加え中東情勢の混乱により企業の経営環境が厳しくなっており、接待などにお金を使う余裕がないと感じる。
来期	不変	愛媛県	来店客数は増加、もしくは同水準で推移すると見込んでいるが、物価高騰が著しく、利益面では大きな変化はないだろう。
	悪化	長野県	円安や物価高騰の影響を販売価格に十分転嫁できていない。また、今後の物価動向も不安定なため、新しい価格を設定することが難しい。

(7) その他飲食

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	好転	福島県	値上げにより客数はやや減少しているものの、客単価が上昇し売上は増加した。
	悪化	徳島県	これまでは仕入価格や人件費の上昇分をメニュー価格へ転嫁してきたが、さらなる物価高騰には対応できず、業況は悪化している。
来期	好転	三重県	来期は夏休みを迎えることから客数の増加が見込まれ、業況は好転すると判断した。
	悪化	富山県	あらゆる物価が上昇しており、消費者が外食への支出を抑えているように感じる。

(8) 食肉

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	好転	北海道	卸売部門は横ばいだが店頭販売は好調。特に惣菜等の売上が伸びている。
	悪化	千葉県	仕入価格の上昇により利益率が低下している上に、消費者の買い控えもあり業況は悪化している。
来期	不変	新潟県	仕入価格の上昇が見込まれるが、価格転嫁により対応することで、来期の業績も変わらない見通し。
	悪化	静岡県	中東情勢の影響で包装資材等が高騰していることに加え、高価格帯の商品も売れ行きが悪く、業況の悪化は避けられないだろう。

(9) 食鳥肉

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	好転	愛知県	飲食店向けの卸売部門が好調である。物価高騰の影響はあるが、新商品の提案など営業活動の効果が始まった。
	悪化	東京都	消費者の節約志向が一段と高まっており、客数の減少や客単価の低下がみられる。
来期	不変	大阪府	来期は繁忙期にあたり、売上の増加が見込まれる。一方で、中東情勢などの影響による経費上昇や消費マインドの低下が続いており、大きな改善は見込みにくい。
	悪化	兵庫県	仕入価格の上昇を受けて、価格転嫁を実施するタイミングを見計らっているが、客足が遠のく懸念がある。

(10) 氷雪

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	不変	大阪府	イベント需要はあったものの、物価高騰の影響もあり好転とまでは言えない。
	悪化	東京都	物価やエネルギー価格の上昇、石油関連商品の不足など世界情勢に大きく影響を受けている。また、酒類を提供する飲食店から客足が遠のいているため、氷の需要も落ち込んでいる。
来期	好転	福井県	猛暑が続けば売上の伸びが期待できる。また、各地で夏祭りの時期を迎えることから、来期は好転する見通し。
	悪化	高知県	人出は多くとも物価高騰の影響が大きいいため、売上は伸び悩むことが予想され、業況は悪化すると判断した。

(11) 理容

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	好転	京都府	インバウンド客の増加に加え、日本人の新規客の来店も好調である。
	悪化	兵庫県	常連客の高齢化により来店サイクルが長期化する傾向があり、売上の減少につながっている。
来期	好転	福井県	気温が高くなれば短髪需要が増加し、来店サイクルも短くなる傾向があることから、来期は好転する見通し。
	悪化	奈良県	物価高騰や中東情勢の報道などを背景に、消費者の節約志向の高まりを感じる。来店サイクルの長期化が予想される。

(12) 美容

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	好転	千葉県	賃金の見直しにより多少の景気回復感があり、来店サイクルが短期化する傾向にある。
	悪化	山梨県	円安や物価高騰の影響で消費者の節約意識が高まり、来店間隔が伸びたことから売上は減少している。
来期	不変	広島県	住宅街に立地しているため、客数の変動はほとんどない。
	悪化	三重県	消耗品費や仕入価格は今後も上昇が見込まれる上に、節約志向の高まりから来店回数も減少するだろう。業況は悪化する見通し。

(13) 映画館

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	好転	大阪府	今年のゴールデンウィークは上映作品の内容に加えて曜日配列にも恵まれ、ここ数年で最も盛況だった。
	不変	宮城県	春休みは『ドラえもん』、ゴールデンウィークは『名探偵コナン』と、例年この時期に同様のタイトルを上映しているため、業況は大きく変わらない。
来期	好転	東京都	夏休み期間中に増収が期待できる作品の公開が予定されており、好転を見込む。
	不変	鹿児島県	来期は不変とみているが、前年のヒット作『国宝』の反動もあり、同程度のヒット作が出なければ悪化する可能性もある。

(14) ホテル・旅館

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	好転	高知県	インバウンド需要に加え国内の団体旅行需要も好調であり、業況は好転と判断する。
	不変	山形県	インバウンド客は好調である一方、国内客は減少しており、総合的に不変と判断した。
来期	好転	栃木県	既に海外からの宿泊予約が入っている上に、夏休み需要により宿泊客数の増加も見込まれる。
	悪化	愛媛県	物価高騰が続く中、客室単価の引上げにも限界がある。消費マインドも減退していると感じる。

(15) 公衆浴場

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	不変	大阪府	客数は横ばいであるが、4月からサウナ料金を別途いただくことで収入は増加した。一方で各種値上げの影響が大きく、収支の改善にはつながっていない。
	悪化	香川県	中東情勢の影響で燃料の入荷が制限され、露天風呂をやむなく休止している。重油価格も1.5倍と大幅値上げになり、収益状況はかなり厳しい。
来期	不変	北海道	住宅地に立地しているため、人の入れ替わりは少ないが、高齢化が進んでいる。急激な変化はないものの、先行きには不安がある。
	悪化	岐阜県	先行きの見通せない状況が続いており、重油の入荷すら不確実である。営業の継続が危ぶまれる状況にある。

(16) クリーニング

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	好転	兵庫県	衣替え需要に加え、中東情勢の影響を懸念して、値上がりする前にとクリーニングに出す顧客が増加した。
	悪化	愛媛県	中東情勢の影響による資材価格等の高騰に加え、消費者の節約志向の高まりによりクリーニング需要が低下している。
来期	不変	石川県	値上げしたことで売上は伸びているが、物価高騰による消費マインドの低下で客足が遠のくことを懸念している。
	悪化	福島県	中東情勢の影響による原油価格高騰を背景に、各種資材の価格が大幅に上昇する見込み。溶剤やハンガーをはじめとして使用する資材の多くが石油由来であることから、影響は大きい。